



2024年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年10月15日

上場会社名 株式会社ラクト・ジャパン 上場取引所 東
コード番号 3139 URL <https://www.lactojapan.com>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三浦 元久
問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 分銅 健二 (TEL) 03 (6281) 9752
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年11月期第3四半期の連結業績 (2023年12月1日～2024年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年11月期第3四半期	128,178	9.2	3,462	44.0	3,479	68.9	2,544	77.3
2023年11月期第3四半期	117,330	9.2	2,403	△13.1	2,059	△24.4	1,434	△27.2

(注) 包括利益 2024年11月期第3四半期 2,006百万円(△13.7%) 2023年11月期第3四半期 2,323百万円(△32.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年11月期第3四半期	255.38	254.29
2023年11月期第3四半期	144.73	143.25

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年11月期第3四半期	83,944	26,069	31.0
2023年11月期	72,038	24,724	34.2

(参考) 自己資本 2024年11月期第3四半期 26,036百万円 2023年11月期 24,655百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年11月期	—	24.00	—	24.00	48.00
2024年11月期	—	31.00	—	—	—
2024年11月期(予想)	—	—	—	45.00	76.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年11月期の連結業績予想 (2023年12月1日～2024年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	164,000	3.6	4,100	44.0	3,000	46.4	301.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年11月期3Q	10,021,600株	2023年11月期	9,961,200株
2024年11月期3Q	63,257株	2023年11月期	5,052株
2024年11月期3Q	9,963,732株	2023年11月期3Q	9,914,332株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記の連結業績予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれております。当該予想と実際の業績の間には、今後の様々な要因によって大きく差異が発生する可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は当社ウェブサイトに掲載いたします。(https://www.lactojapan.com/ir/)

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位に変更して記載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(以下、「当第3四半期」)における我が国経済は、物価高騰の影響で個人消費が伸び悩んだものの、企業業績や雇用・所得環境は改善し、景気は穏やかな回復傾向となりました。一方で、世界経済は、東欧・中東地域における紛争の長期化や中国経済の低迷、欧米諸国の景気下振れリスクの顕在化、それらを背景とした為替相場の大幅な変動など、先行き不透明な状況が続きました。

国内の食品業界においては、各種食品の値上げにより消費者の節約志向は強まる傾向がみられましたが、経済活動の回復に伴う人流の増加やインバウンド消費の活況により、業務用の食品需要は堅調となりました。

このような状況のもと、当社グループでは中期経営計画「NEXT-LJ 2025」の達成に向け、各種施策の推進に努めました。国内事業は、業務用を中心に回復した食品原料需要を背景に、すべての部門において販売数量が前年同期比で増加し、乳製品原料および食肉製品の価格上昇や円安により販売価格も高水準が継続したため、業績は好調に進捗しました。アジア事業は、チーズ製造販売部門においてプロセスチーズ、ナチュラルチーズ加工品ともに販売数量が前年同期比で増加し、業績は順調に推移しました。

以上の結果、当第3四半期の売上高は1,281億78百万円(前年同四半期連結累計期間、以下、「前年同四半期」)比9.2%増)となりました。また、営業利益は34億62百万円(前年同四半期比44.0%増)、経常利益は34億79百万円(前年同四半期比68.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は25億44百万円(前年同四半期比77.3%増)となりました。

部門別状況につきましては以下のとおりです。

(乳原料・チーズ部門)

乳原料販売においては、国内の生乳生産量の減少により国産の脱脂粉乳やバターの生産量および在庫量が減少したことに加え、外食やレジャー産業が好調であったことから、輸入乳製品原料に対する需要が回復傾向となりました。なかでも、猛暑の影響によりアイスクリーム原料の需要が旺盛となったほか、菓子など幅広い食品の原料となる乳調製品や、チョコレートの原料となる乳糖などの需要も高まり、これら原料の販売数量が前年同期比で増加しました。また、飼料向けの輸入乳原料の需要も回復し、ホエイパウダーなどの関連商品の販売も好調となりました。

チーズ販売においても、外食など業務用を中心に需要は堅調となり、当社への新たな引き合いが増えたことに加え、既存取引が拡大し、前年同期比で販売数量は増加しました。

以上の結果、当第3四半期の乳原料・チーズ部門の販売数量は134,143トン(前年同四半期比7.5%増)、売上高は875億10百万円(前年同四半期比5.2%増)となりました。

(食肉食材部門)

食肉食材部門においては、欧州産豚肉に対して価格競争力のある米国産豚肉への引き合いが続いたため、米国に主要サプライソースを持つ当社にとっては追い風の事業環境となりました。加えて、新規の販売先開拓も進み、豚肉の販売が増加しました。特に、食肉加工品の原料となるフローズンポークやシーズンドポークの販売が好調に推移しました。

また、前年下期より本格的な取引が始まった鶏肉および鶏肉加工品の販売も安定的に推移したことから、当部門の販売数量は前期比で大きく伸長しました。

以上の結果、当第3四半期の食肉食材部門の販売数量は24,145トン(前年同四半期比15.9%増)、売上高は163億40百万円(前年同四半期比21.8%増)となりました。

(機能性食品原料部門)

機能性食品原料部門においては、当第3四半期もプロテイン製品の原料である乳たんぱくの販売が順調に進捗しました。展示会への出展などを通じたマーケティング活動による新規取引先の開拓に加え、既存顧客との取引深耕により販売数量が増加しました。当期は、需要が旺盛な乳たんぱくの販売活動に重点を置いているため、乳たんぱく以外の機能性食品原料の販売は計画を下回っていますが、今後は、商品ラインナップの強化や各種機能性原料を組み合わせた複合提案をさらに強化するなど、事業拡大に努めてまいります。

以上の結果、当第3四半期の機能性食品原料部門の販売数量は2,438トン(前年同四半期比30.5%増)、売上高は30億17百万円(前年同四半期比10.5%増)となりました。

(アジア事業・その他)

乳原料販売部門(商社)においては、当第3四半期に入り、日本の脱脂粉乳在庫対策事業の影響で減少していた粉乳調製品の原料販売によりやく回復の兆しが見えはじめました。また、アジアで事業展開する日系食品メーカー向けの原料販売が第2四半期に続き第3四半期も好調に推移したこと、インドネシアの販売拠点におけるトレーディング事業が軌道に乗りはじめたことなどから当部門の販売数量は底堅く推移しました。

以上の結果、当第3四半期の販売数量は28,871トン(前年同四半期比5.1%増)、売上高は154億59百万円(前年同四半期比9.7%増)となりました。

チーズ製造販売部門(メーカー)においては、景気低迷が続く中国向け販売は引き続き低調となったものの、シンガポール、マレーシアでは外食やベーカリー向けの販売が引き続き好調に推移し、前年同期比で販売数量が増加しました。タイでは、景気は軟調な状態が続いておりますが、ホテル、外食、カフェなどへの販売に回復の兆しが見えはじめました。

以上の結果、当第3四半期の販売数量は3,889トン(前年同四半期比9.8%増)、売上高は41億39百万円(前年同四半期比19.2%増)となりました。

以上により、当第3四半期のアジア事業・その他の売上高は213億10百万円(前年同四半期比18.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ119億6百万円増加し、839億44百万円となりました。

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末と比べ114億80百万円増加し、785億48百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が72億79百万円、商品及び製品が21億29百万円、現金及び預金が19億76百万円それぞれ増加したことによるものです。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末と比べ4億26百万円増加し、53億96百万円となりました。これは、無形固定資産が2億35百万円、有形固定資産が1億22百万円増加したことによるものです。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末と比べ102億55百万円増加し、472億88百万円となりました。これは、運転資本の増加により短期借入金が76億37百万円、買掛金が8億7百万円それぞれ増加したことによるものです。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末と比べ3億5百万円増加し、105億86百万円となりました。これは、長期借入金が3億55百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比べ13億45百万円増加し、260億69百万円となりました。これは、利益剰余金が19億96百万円、その他有価証券評価差額金が1億4百万円増加した一方で、繰延ヘッジ損益が5億38百万円、為替換算調整勘定が1億4百万円減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年11月期の連結業績予想は、2024年7月12日に公表しました内容から変更していません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,779	9,755
受取手形及び売掛金	18,700	25,980
商品及び製品	38,798	40,927
原材料及び貯蔵品	1,008	1,268
その他	783	627
貸倒引当金	△1	△10
流動資産合計	67,068	78,548
固定資産		
有形固定資産	2,185	2,307
無形固定資産	73	309
投資その他の資産		
その他	2,731	2,799
貸倒引当金	△21	△21
投資その他の資産合計	2,710	2,778
固定資産合計	4,969	5,396
資産合計	72,038	83,944

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	14,033	14,841
短期借入金	14,380	22,017
コマーシャル・ペーパー	3,000	3,000
1年内返済予定の長期借入金	4,402	4,742
未払法人税等	252	569
その他	964	2,117
流動負債合計	37,033	47,288
固定負債		
長期借入金	9,125	9,481
退職給付に係る負債	432	467
資産除去債務	55	67
その他	667	571
固定負債合計	10,281	10,586
負債合計	47,314	57,874
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,178	1,209
資本剰余金	1,179	1,209
利益剰余金	20,066	22,063
自己株式	△14	△152
株主資本合計	22,409	24,329
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	276	381
繰延ヘッジ損益	△56	△594
為替換算調整勘定	2,025	1,920
その他の包括利益累計額合計	2,245	1,707
新株予約権	68	33
純資産合計	24,724	26,069
負債純資産合計	72,038	83,944

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年8月31日)
売上高	117,330	128,178
売上原価	111,416	120,671
売上総利益	5,914	7,506
販売費及び一般管理費	3,510	4,044
営業利益	2,403	3,462
営業外収益		
受取利息	17	62
受取配当金	14	21
持分法による投資利益	16	21
為替差益	-	321
保険返戻金	8	5
雑収入	30	23
営業外収益合計	88	456
営業外費用		
支払利息	170	218
支払手数料	159	167
為替差損	75	-
雑損失	26	54
営業外費用合計	432	439
経常利益	2,059	3,479
税金等調整前四半期純利益	2,059	3,479
法人税等	624	935
四半期純利益	1,434	2,544
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,434	2,544

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年8月31日)
四半期純利益	1,434	2,544
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	104
繰延ヘッジ損益	325	△538
為替換算調整勘定	531	△99
持分法適用会社に対する持分相当額	12	△4
その他の包括利益合計	888	△538
四半期包括利益	2,323	2,006
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,323	2,006
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年8月31日)
減価償却費	267百万円	320百万円